



その時代の流れ

学校法人 四條畷学園全学同窓会長 大西 寛治

若楠の原稿を書き始めたら、長嶋茂雄さん死去のニュース速報がながれました。我々の世代は、子供時代からプロ野球を通して数多くの憧れと勇気を頂きました。昔は、巨人戦の野球放送が主でした。大人になり、巨人以外のチームがテレビ放送されパリーグやセリーグの地元チームのファンが誕生しました。しかし、私を始め巨人は嫌いだけど、長嶋は別やと言う長嶋茂雄ファンは多くいらっしゃると思います。名言やエピソード等多くの長嶋茂雄さんに関する事柄もあります。国民栄誉賞や文



化勲章を受章され、野球の一時代を築いて頂きました。ありがとうございました。安らかにと願います。

さて、人類の進歩と調和のテーマで1970年に日本で初めての国際万国博覧会が大阪府吹田市で開催されました。太陽の塔や月の石が人気でした。テーマソングは、三波春夫さんの「世界の国からこんにちは」でした。全ての国民が知っていました。55年経った今も若者に、「世界の国からこんにちは・1970年のこんにちは」を知っているかと尋ねたら、多くの若者が三波春夫は知らないが、歌を聴いた事が有ると答えています。4月13日から大阪・関西万国博覧会が大阪夢洲で開催されています。入場券も会場の整理券も購買品も全てカード決済、高齢者は辛いですね。一周2ヵの大屋根リングも、各パビリオンも夜間水上ショーも人気です。マスコットのミャクミャクも人気急上昇で入場者は、一日15万人を超えています。1970年の大阪吹田万博のテーマは「人類の進歩と調和」。2005年愛知万博のテーマは「自然の叡智」。2025年大阪関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」です。それぞれ時代の変化に適合したテーマでした。この他につくば博や、沖縄海洋博、神戸ポートアイランド博、1990年大阪鶴見緑地で国際花と緑の博覧会もありました。大阪・関西万博が無事に大成功で終わる事を祈ります。

また昨今では、米不足が大きな問題となっています。まさか、米不足を話題にすることは無いと思っています。

た。お金を出しても手に入らない時代です。政府は備蓄米を放出して乗り切ろうとしています。備蓄米が店頭に出てきません。農林水産大臣が小泉氏に変わり、一般競争入札から随意契約で備蓄米を放出し、2,000円前後で消費者の手に入るようになりました。しかし、これからの時代、生産者が肥料代や農機具代が高騰する中、満足して稲作が出来る価格と、消費者が安心して買える価格を、政府と生産者と消費者の三方よしの精神で価格設定してもらい、安心して暮らせる時代の変化に対応して欲しいものです。

教育現場でも高校の授業料無償化で私学の在り方が、時代変化で大きく変わりつつあります。加えて少子化の影響で、大学から保育園まで全国的に定員不足が発生しています。特に短期大学の定員不足が深刻です。短期大学だけの学校では存続にかかわる大問題です。専門学校や四年制大学を受験する学生が増えていることも、少子化問題に拍車をかけているのではないのでしょうか。時代だと言わずに、同窓会としても一人でも多くの学生に四條畷学園に入学してもらい、保育園から大学まで定員充足して安定的に運営出来る様にお手伝いして行きたいと思います。

来年は四條畷学園が創立100周年を迎えます。報恩感謝の精神で100周年を迎える準備を計画しております。皆さまのお力をお貸し頂き、周年事業も乗り切る覚悟です。ご協力をよろしくお願い致します。

人生を通じた学園とのきずな

～伝えたい大切なこと～

平素は四條畷学園の運営に何かとご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

学園は来年4月11日に100周年を迎えます。これまで記念事業として、総合ホールの図書館(愛称:「いもりね manabi館」)や食堂(愛称:「くすのき食堂」)などのリニューアルを実施してきました。また、ソフト面では、創立者牧田宗太郎先生(以下創立者という)の思いやイメージを示す言葉であるタグライン「学ぶ喜びをずっと。(joy of learning for life)」を発表しましたが、時代が変わり、世の中が変わっても変わらない先人の「伝えたい大切なこと」を100周年後にもつなげる「学園スピリッツのリレー」の機会にしたいと思っています。

記念誌編集でご協力いただいている学園高校元校長の高山先生が昨秋、「記念誌外伝」とも言うべき「若楠の香の下で」を上梓され、学園に寄贈されました。学園の母体となった四條畷高等女学校の生徒と教職員が当時書いた詩文とそれらの人たちが戦後に学園に向けて書いた文章をあわせてまとめられたものです。「100周年に向けて教職員、関係者の気運が高まる一助となればと、当時の生徒や教職員の『それぞれの人たちの人生

と学園のきずな』を描きながら、学園の理念を甦らせようと思って書いた本です。」ということで大変ありがたく、深く感謝を申し上げます。拝読して大変印象的だったのは、数多くの生徒や教職員が人生を通じて学園生活をここに抱きながら生きている「人生を通じた学園とのきずな」の強さでした。特に、生徒として、また、子供や孫の保護者として、更には同窓会長として関わってこられた田中静子さん(5期生)の寄稿文(卒業後40年、学園50周年)がその象徴として紹介されています。

人には「大切だと感じたことは人に伝えたい」という尊い本性が備わっているようです。当時の先生と生徒との関係が「人生を通じた学園とのきずな」につながり、卒業後、何十年も経ち、同窓生の皆さんを今の学園新聞や若楠会報の源流の「若楠」と姉妹紙の「楠のかほり」、戦後の「楠のかおり」などの発刊・復刊に向けて駆り立て、高山先生のご本の上梓につながったものと拝察しています。改めて、今日の学園の基礎を築いたのは創立者や学園教職員のほか、このような同窓生の皆さんの思いや献身的なご努力の積み重ねの賜物であると感じています。

学校法人 四條畷学園理事長

小谷 明



来年10月24日には創立100周年記念の「ホームカミングデー」が開催されます。

当日は在校生の文化クラブ発表や卒業生で活躍している人たちのステージ企画などのほか、「吹奏楽部・マーチングバンド部のOBバンド」の演奏披露も計画されています。クラブ単位、クラス単位の同窓会も大歓迎です。数多くの同窓生の皆さんにお越しいただき、皆さんにとっての「人生を通じた学園とのきずな」を再確認していただく場になれば幸いです。

その頃には、駅前ロータリーや駅から学園正面までのペDESTリアンデッキも完成し、駅前キャンパスの顔となるエントランス・中庭(現在のバス通り)も整備されています。学園の新しい風景と変わらない風景の中で数多くの同窓生の皆さんの旧交を温める機会になればと思っています。

最後になりますが、100周年が学園ファミリーの更なる一体感につながることを願うとともに、季節の変わり目、くれぐれもご自愛くださいますようお願い申し上げます。

予告

創立100周年記念

卒業生全員での同窓会

HOME COMING DAY 2026

四條畷学園 創立100周年記念ホームカミングデーのご案内

期日 令和8(2026)年
10月24日(土)午後～

場所 【第Ⅰ部】高校体育館
【第Ⅱ部】リニューアルされた学園町食堂

総司会 吉本新喜劇女優 金原早苗(高57回卒)

問合せ 同窓会事務局
TEL.072-876-1321(代表) 内線83-601

第Ⅰ部 高校クラブの演奏・演技発表
(吹奏楽部・マーチングバンド部・ダンス部・バトン部・歌声部を予定)
歌手…音楽みずぎ(高51回卒)
津軽三味線…飯田華那(高校71回・短56期卒)
演奏…高校吹奏楽部・高校マーチングバンド部の卒業生バンド

参加者を募集しています。
詳細は、同窓会HP(右の二次元コード)をご覧ください。

第Ⅱ部 立食パーティー

※Ⅰ部かⅡ部 参加者に100周年記念品を呈呈

詳しくはこちら



※詳細が決まり次第、ご案内いたします。
楽しみにお待ちください。
令和7年は準備の為、「ホームカミングデー」は開催しません。

Elementary school

私の小学校の思い出

1982年3月小学校卒業・1985年3月中学校卒業
1988年3月高等学校卒業・1990年3月短大卒業

大濱 秀美

学 園小学校の6年間の思い出は、先生や友達と一緒に遊び、学び、大切な仲間ができたことです。

4月。桜が満開の頃、両親に買ってもらった赤いランドセルが嬉しくて、桜の木の下や正門の看板で写真を撮ってもらいました。1年生の教室の窓からは、大きな桜の木が見えて風がふくと花びらが散るのがキレイで、落ちた花びらを拾って集めて散らして遊びました。

休み時間になると、走って校庭へ出ていき友達と一緒にジャングルジムやブランコ、鉄棒で遊ぶのが好きでした。特に鉄棒が得意だったことが自信に繋がり、大人になってからも生かせるようになりました。

雨の日は、校庭に赤旗が立っていて外へは出られず、コンコースで「ゴム跳び」「ノータイム」「坊さんがへをこいた」をしていました。教室では女子3人で机の上に立ち上がって、「ピンクレディー」や「キャンディーズ」になりきって歌ったり踊ったりして、みんなから拍手をしてもらおうとすごく嬉しくて何曲も踊って楽しんでいました。

昼休みの時間は、3クラスの壁を越えて先生や男の子たちと一緒に野球をして遊びました。ボールとバットが重たくて思うように遠くまで打てませんでしたが、チームの仲間は励まし応援してくれて嬉しかったです。

放課後は男の子と一緒に数十人で集まって、鬼ごっこやかくれんぼやたんていをしたり、教室では自分たちで作ったデートごっこ遊びをしたりして、遅くまで残って遊んでいました。

学校行事で一番苦手で大変だったのは、いいもり山登りです。1年生の時は、6年生のお姉さんお兄さんに

手を繋いでもらって、新しいリュックサックにお弁当やおやつを沢山入れて重たい水筒を持って登ります。途中から疲れて歩けなくなると「ガンバレ」「もうすぐつくよ」「あと少し」と言って、6年生が励まし応援してくれました。頂上へ着くと嬉しくて、一緒に食べたお弁当おいしかったな～！その後も、校庭で遊んでいると声を掛けてくれたり遊んだりしてくれて、中学校へ行ってからも優しくしてもらって交換日記ノートをしていました。

秋になると運動会がありました。3クラスが混ざり合い、紅白に分かれて競い合います。中でも紅白リレーは得点が高く、毎年ほぼ選ばれるようになり、この頃から走るのが大好きになりました。両親が仕事の為、祖母とおばさんが見に来てくれます。お弁当と一緒に食べた午後からは、母も仕事を抜けて少しだけ見に来てくれるので午後の競技も頑張れました。

授業の中で楽しかったのは、自分で好きな課題ができる美術です。私は絵を描くことが好きで、家の近くの絵画教室へ習いに行ったこともあり、美術室の横に教材園があって、そこにはウサギ、ニワトリ、メダカ、アヒルがいたので、友達と一緒にニワトリ小屋へ行き、こっそりと葉っぱをちぎってエサにして食べさせていました。教材園にそうじのおじさんがいて、見つかっておこられたこともあり、

3年生になると食堂へ行ってパンやジュース、カレーやうどん、Aランチが食べられるようになり、持っているお金を計算しながら食べることも楽しみ



で嬉しかったです。

大人になった今でも、小学校の時に仲良くなった友達とは頻繁に会って、食事をしたり旅行へ行ったりしています。男の子たちとも年に2回は会って、数人で集まります。中には中学校で新たにできた友達もいて、一緒に食事会をして、思い出話に花が咲きます。

先生には、修学旅行、林間学校、臨海学校、遠足、運動会、プールなどの沢山の行事で、子どもたちの為に楽しい事や嬉しい事を企画し、思い出を作ってくださいとお世話になりました。

いつも笑顔で優しく、時にはきびしく温かい心で受け止め心配してくれた先生。本当にありがとうございました。小学校へ行かせてくれた父と母に「ありがとう」と感謝の気持ちです。

学園小学校の思い出にありがとう!! 出会った先生、友達は私の宝物です。

Junior high school

吹奏楽部が音楽活動の原点

2014年3月小学校卒業・2017年3月中学校卒業
バリ・エコー・ノルマル音楽院在学中 小玉 帆華

私 は当時、中学校で吹奏楽部に所属しており、そこで音楽の楽しさを学びました。中学校で音楽の楽しさを知ることができ、今でも音楽を学び続けています。幼い頃から音楽を学んでいましたが、中学校のクラブ活動が私の音楽活動の原点となっています。

クラブ活動は私にとって今までで一番熱中できるものでした。大変なことも多くありましたが、仲間と支え合い、1つ1つの本番を作り上げていくことの楽しさ・達成感は今でも覚えています。私にとって中学校の吹奏楽部で過ごした3年間は青春そのものでした。



中学校卒業後も高校・大学で音楽を学びながら、中学校のクラブ活動に参加し、後輩たちと音楽の楽しさを共有してきました。卒業して9年経った今でも大好きな学園中学校の吹奏楽部に関わることができ、幸せな気持ちでいっぱいです。特に今年の8月には大阪関西万博で



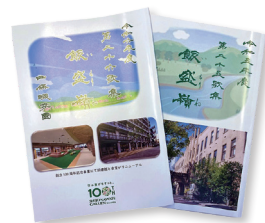
行われた『万博こども音楽会』に演奏者としてだけでなく、指揮者としても参加することができ、私にとって貴重な経験となりました。

また、さらに音楽への学びを深めたいと思い、今秋から2年間フランスへ留学することを決めました。本場の音楽に触れながら技術を身につけ、音楽に対する理解を深められるよう、たくさん学んできます。そして帰国後、また学園中学校の吹奏楽部の後輩たちと一緒に音楽を奏でたいと思います。

学園の歌集『飯盛嶺』

短歌募集

歌集『飯盛嶺』は、学園に在学している児童・生徒・学生、及び保護者の皆さま・教職員から寄せられた短歌を掲載しています。第1歌集は、平成12年に発刊し、令和7年度で第27歌集になります。



創立者の牧田宗太郎先生は、多くの歌を詠み、歌集も残されています。その歌は、学園に学ぶ子らの健やかな成長を祈り、教育者としての熱い思いにあふれたものでした。この創立者の心を今に引き継ぎ、学園に関係する人たちの心がやさしく重なり合う歌集になっています。卒業生の皆さんも、是非投稿してください。

投稿は、右の二次元コードからお願いします。令和7年度の歌集に掲載します。(〆切10/31)



【同窓会関東支部 開催のお知らせ】

下記のように開催します。久しぶりの開催です。関東在住の方、奮ってご参加下さい。
参加ご希望の方は、同窓会事務局までご連絡下さい。

記

日時 令和7年10月19日(日) 正午～午後3時
場所 横浜中華街『桂宮』(神奈川県横浜市中区山下町151) TEL.045-226-5088
会費 8,000円
幹事 芝(北田)スミ子(小・中・高・短 卒業)
問合せ 同窓会事務局 足立 太造(元高校教諭)
TEL.072-876-1321(内線83-601) FAX.072-879-7237
Email: adachi@hs.shijonawate-gakuen.ac.jp

同窓会主催

第97回 楠球会ゴルフコンペのお知らせ

日時 令和7年11月15日(土)
スタート9時30分～

場所 大阪パブリックゴルフ場

会費 4,000円

※プレー費は各自お支払い
ください

申込・問合せ 北田宗男(中学校、昭和54年卒)
携帯:090-2110-0350



第95回 5月17日開催 交野カントリークラブ



High school

四條畷学園は、私の心の故郷

1987年3月 高等学校卒業

ロウリンス 智綾（宮崎 智綾）

先般、教え子（1年次担任）から、38年振りに連絡が入りました。彼女は、高校卒業後、アメリカに留学して、現在は、大阪・関西万博のルワンダ共和国のパビリオンで働いています。経緯の詳細は、原稿に記載されていますので、お読みください。いつまでも、母校を愛して頂けることは、嬉しい限りです。

（同窓会事務局・足立太造）

2025年7月17日、私は38年ぶりに母校を訪れました。新しい校舎、現代的な制服、しかしながら校舎の片隅や中庭には懐かしい面影が残り、一瞬にして少女時代へ引き戻されました。

さて、38年前、英語も満足に話せないままアメリカ留学を決意した私に、担任の先生が「お前、大丈夫なんか？英語できへんのに」と心配そうに声をかけて

くれたことを、今でも鮮明に覚えています。その不安は現実となり、渡米直後、何度も涙を流しました。アメリカ・カリフォルニア州立大学を卒業後、アフリカのルワンダで数年間暮らし、アメリカに戻り、企業の最高執行責任者(COO)を務め、4つのNPO法人の理事を経験しました。アメリカに戻っても、約30年ほど継続して、ルワンダの教育支援や人道支援に携わって参りました。これらはすべてボランティアで続けてきましたが、このたびルワンダ政府より2025年大阪・関西万博のルワンダパビリオンのコーディネーターというお仕事をいただき、現在日本で勤務しております。

なぜ、アメリカに戻っても、遠いルワンダの地で活動しているのか。その理由はアメリカ留学時代にルワンダ

の人々と家族のような深い絆を築き、1994年のジェノサイドで彼らが家族を失う悲劇に直面したからです。あの時、1000体もの遺体が横たわる教会の中を歩いた衝撃は、生涯忘れることができません。あれから31年。現在のルワンダは「アフリカの奇跡」と称されるほど復興し、平和と希望に満ちています。私はこの31年間、人道支援活動やジェノサイド教育を通じて「Never Again（二度と繰り返さない）」という誓いを胸に、平和の尊さを伝えてきました。

高校時代の私は、中学時代のいじめや登校拒否に苦しみ、自信を失っていました。しかし、この学園で「個性の尊重」「実行から学べ」「明朗と自主」の教育方針のもと、協調性や友情を大切にする温かな環境の中で、自分自身を取り戻し、再び前を向くことができました。

今年、日本は戦後80年を迎えます。この節目に、私は改めて平和の大切さと、過去の悲劇を未来への希望に変える責務を深く感じています。この学園は私にとって人生の原点であり、今も心の故郷として私を支えています。そして、新たな決意をもって次のチャプターへ進みたいと思います。



ルワンダ共和国の仲間達



7月4日 ナショナルデー



ルワンダ パビリオン

「なりたい自分」との出会いを大切に

2011年3月中学校卒業

2014年3月高等学校卒業 大野 未貴

私は四條畷学園中学校・高等学校(当時は特進コース)に在籍し、吹奏楽部に所属しておりました。高校生活の3年間、学業と部活動の両立は正直大変で、辞めようかと悩んだこともありましたが、「誰よりも負けず嫌いで、やりたいことは諦めない」というモットーのもと、最後までやり抜くことができました。

高等学校卒業後は関西外国語大学に入学しました。大学2回生の時に将来について深く考えた際、もともと興味を持っていたホテル業界に加え、航空業界にも関心が湧き、この二つの分野で就職活動を進めることに決めました。その過程で自分自身に向き合い、本当にやりたいことを再考した結果、やはりホテル業界への情熱が強いことに気付きました。そして、ホテル業界の中でも、特に「ホテルの顔」であるフロント職を目指すことを決意しました。

2018年に大学を卒業し、ホテルモンテ株式会社

の宿泊部(フロント)に入社。現在も同じ職場で日々の業務に励んでおります。フロント職は多くの方がイメージされるチェックインやチェックアウト業務に加え、幅広い業務を担うことが求められ、日々新たな学びがあります。

私はこの仕事が好きで、一番やりがいを感じる瞬間はリピーターのお客様が来館された時です。いつもご利用いただくお客様のお名前やお顔を必ず覚えるよう心がけ、来館時にはこちらから積極的にお声掛けをしています。その結果、「大野さんに会いに来た」「いつも本当にありがとう」といったお言葉をいただくことが増え、この仕事を選んで良かったと実感する日々です。

幼少期にぼんやりと思い描いていた「こんな仕事ができたら良いな」という夢が実現し、充実した毎日を送ることができています。今後もより一層努力を重ね、多くのお客様に非日常の空間を提供できるホテルを



目指し、業務に進進して参ります。

皆さんも、人生の中で「なりたい自分」に出会った際には、どうか諦めず、真っすぐ突き進んでください。

同窓生の集い

同窓会事務局に楽しい記事が届けられましたのでご紹介いたします。

是非、皆さんも、学年・クラス・クラブ等で同窓生の集いを企画してください。ご相談等がありましたら同窓会事務局までお問合せ下さい。

学園にて音楽部のランチ会&メモリー

1968年3月小学校卒業、1971年3月中学校卒業、1974年3月高等学校卒業

Japan Business MKH代表 牧野(寺島) 孝子(スウェーデン在住)

幼稚園から高校までの時期を過ごした四條畷学園は私にとって特別な場所。帰国の際に時折懐かしくなり車で通過する。

昨年、久々に通ると小学校の門がとても立派になっているのに驚いた。毎年一時帰国する度に高校時代の音楽部のメンバーが集まる。昨年のその話をすると「じゃあ、今年は学園に行こう」という事になり、令和7年1月24日に母校でのランチ会が実現することになった。

平日だったため集まれたのは9人、そこに田主先生と海野先生が参加して下さって合計11人で母校を訪問。当日は『四條畷学園高等学校 音楽部OG会』と書かれた大きなサインボードを同窓会事務局の方が掲げて出迎えて下さった。

校舎に入るとちょうど階段を下りて来られた小谷理事長にご挨拶して会場へ。初めて入るその部屋はとても落ち着ける空間で、和やかにランチを楽しんだ。図書室や広々とリニューアルされた食堂を見学して、さあ音楽室へ。途中、職員室の前で足が止まる。高校生活で

は教室の次に頻繁に出入りした職員室。その中は現在どのようになっているのか？扉を開けると部屋も先生方のカラーも昔のままで当時にタイムスリップ！2年間担任して下さった益田昭子先生や生徒会でお世話になった岩田憲夫先生の姿がオーバーラップした。

音楽室に到着すると後輩が当時の楽譜を並べてくれていた。素晴らしい！感動しながら海野先生のピアノ伴奏で次々と歌い始めた。「ここはフェルマータで歌うのよ」という先生とのやり取りは、もう高校時代そのものだった。学園の先生方とは家族のような関係で、その恵まれた環境で感じやすいティーンエイジの高校時代を過ごせたことも蘇り、それが卒業50余年たった今でもそのまま受け継がれていることへの感謝、そしてこれからもずっと続いてくれることを願う貴重な母校訪問となった。



詳細はこちらから



University

大学での学びを胸に人々に貢献

2011年3月大学（リハビリテーション学科）卒業
株式会社familink 代表取締役社長 金児 大地

四 條暇学園大学3期生の金児大地と申します。私は大学を卒業後、病院・クリニック・訪問看護ステーションでの勤務を経験したのち、2015年に株式会社familinkという会社を起業、現在は大阪市鶴見区で3拠点7事業、50名弱のスタッフと一緒に日々地域の医療・介護を必要とする人にサービスを届けています。

大学在学中、勉強ができず先生方には多大なご迷惑をおかけしましたので会報誌にこのような文章を書かせていただいていることに少し不思議な気持ちです。今年から四條暇学園大学の学生さんの実習受け入れも始まる事となり、少しは恩返しができるかな？と、胸を撫で下ろしております。

今は同級生（私は留年しましたが）も弊社で働いてくれており、あの辛い坂道を必死で通った大学にはたくさんの良縁をいただきました。皮肉じゃないですよ（笑）

2020年には新型コロナウイルスが世の中を大きく支配し、急速に働き方や仕事のあり方が変化しました。そんな中、私たちのような“お体に触れさせていただく仕事”の価値は大きく高まったように感じます。どれだけ科学が進化しても人の手の温もりの持つ安心感や安らぎは変わりようがありません。AIやロボットが発達しても私たちが身につけた人に触れる“手”は奪われないのです。在学中の学生の皆さんには、これから携わる仕事に誇りを持ち、限られた学びの時間を大切にさせていただけたらと思います。

これからも大学での学びを胸に、たくさんの人の幸せや喜びに貢献できる会社であり続けたいと考えています。



会社HP

Junior college

卒業後の歩み～病院事務から福祉専門職へ～

2018年3月短大（ライフデザイン総合学科）卒業
大阪府中央子ども家庭センター（児童福祉司） 大森 唯香

な わたんに入学したあと、元々人に関わる仕事につきたいと思っていたことから医療事務エリアを選択しました。在学中は医療事務の資格だけでなく、WordやExcelの資格も取得し、学びを続ける中で、病院で働きたいという目標ができました。

卒業後は、医療事務の資格を活かしながら、医療相談員として病院に勤務し、主に患者さんの入退院の支援を行っていました。さらに患者さんや支援が必要な人のために、知識を身につけたいと思ったこと、スキルアップしたいと考えたことから、社会福祉士の取得を目指しました。

病院での勤務を続けながら、通信の専門学校に1年半通ったのちに、社会福祉士国家試験を受験しました。社会福祉士国家試験は合格率も低く、働きながらの試験だったこともあり難しさに何度も悩みましたが、模試をたく

さん受け、何度も過去問を解いて何とか合格。これは、なわたんで培われた諦めない努力だと思っています。

高齢の分野だけではなく様々な分野を学びたくなったこと、さらに上を目指したいと考え、公務員試験を受験し、現在は、児童福祉の分野で働いています。社会福祉は分野も広く、学ぶことがたくさんあり、また制度も年々変わっていくため日々勉強の毎日です。大変ではありますが、学んだ分知識が身につくことや、その知識を生かし支援が必要な方に寄り添えることにやりがいを感じています。

これからも、福祉専門職として幅広い経験を積み、専門知識をさらに獲得したいと考えています。



信頼される看護師をめざして

2025年3月大学（看護学科）卒業
JCHO 星ヶ丘医療センター 看護師 築地 郁佳

看 護師として働き始めて3ヶ月が経ちました。現在は小児科病棟で勤務しており、慣れない環境や業務に戸惑いながらも、日々多くのことを学んでいます。

私は学生の頃から小児科希望でしたが、新卒からいきなり小児科へ配属されることに対しては技術面での不安が大きくありました。しかし、所属している病院ではローテーション研修があり、手術室・HCU・成人病棟など様々な部署で研修を行い、幅広い看護技術を学ぶことができています。また、小児科ならではの難しさとして、発達段階や年齢によってコミュニケーションの取り方が大きく異なることがあると思います。最近では、年齢や発達に合わせた説明や関わり方を意識して対応できるようになってきました。

例えば、情報収集ひとつをとっても、幼児には遊びを通して関わる必要があったり、思春期の中学生にはプライバシーへの配慮から訪室のタイミング

を見計らったりと、一人ひとりに合わせた関わりが求められます。難しさもありますが、関わりの中で信頼関係を築けたときにはとても嬉しいです。また、同期との関わりや、先輩とのコミュニケーションを通して、人間関係の大切さも日々感じています。報告や相談はもちろん、忙しい中でも声をかけ合い、助け合いながら業務を行うことやチームカンファレンスを通して問題点を共有し、話し合って解決することなどチーム医療の大切さも学んでいます。

まだまだ未熟で、悩むことも多いですが、患者さんにとって少しでも安心できる存在になれるよう、頑張っています。

今後も知識と技術を深めながら、信頼され、頼られる看護師を目指していきたいです。



築地郁佳さん(左)と同期生の真鍋沙里さん(右)

四條暇学園100周年によせて

～四條暇学園女子短期大学で学んだ、伝える力・つながる心～

1992年3月短大（保育学科）卒業
東喜連保育園園長 織田 貴子

四 條暇学園女子短期大学で過ごした二年間。振り返ると、保育の勉強はもちろん大切な時間でしたが、何よりも心に残っているのは人形劇クラブ（当時は合唱部といっていました）仲間たちとの深いつながりです。

人形劇クラブでは、みんなで脚本を考え、声を出し合い、手作りの着ぐるみ人形の中に入って動いて一つの作品を作り上げる楽しさと難しさを学びました。上演したときの、子どもたちが目を輝かせて見つめる姿や笑顔は今でも忘れられません。子どもたちを引き付けるすべは、この時にこのクラブで学ぶことができました！

また、クラブの仲間とは放課後に遅くまで練習したり、意見がぶつかったり、時には顧問の先生から厳しいご意見をいただきながら、そしてお菓子を山盛りたべながら（笑）も、最後には一緒に笑い合える、そんな信頼関係がありました。あの時間があったからこそ、

「伝えること」「感じ合うこと」「思いを合わせること」の大切さを、身をもって学ぶことができたと思います。

そして……。そんな私も、保育士としての経験を積み、園長として子どもたちや保護者、そして職員と向き合う日々を送っています。短大時代に育まれた「人と関わる力」が、今の自分を支えてくれていると実感しています。同級生、先輩の方々とは今でも繋がりをもち、仲良くさせていただいています。

四條暇学園女子短期大学で過ごした日々が、これからも多くの学生の人生を豊かにし、社会へ羽ばたく力となっていくことを願っています。

心からの感謝と祝福を込めて
この度は四條暇学園100周年、本当におめでとうございます！



事務局からのお知らせ

1.年会費納入のお願い

このたび、第15号「若楠会報」を発行することができました。同窓生の皆さまのご協力のお陰であり、心より感謝申し上げます。同窓会の活動は、若楠会報の発行（約3万人に発送）・全学同窓会ホームカミングデー開催などがあります。これらの活動は、同窓生の皆さまの入金金・年会費により賄われており、一人でも多くのご支援が不可欠であります。

同窓会活動のより一層の活性化の為、**年会費2,000円の納入について、何卒ご協力のほどお願い申し上げます。**

（小学校・中学校の会員の方は20歳以降、高等学校・短期大学・大学の方は、卒業後6年が経過した年より年会費納入をお願いしております）

2.住所変更のご連絡について

同窓会HP（右の二次元コード）からご連絡をお願いします。

また、皆さまのお知り合いの卒業生で、若楠会報が届いていない方は、住所不明者になっていると考えられます。住所変更のお声かけをお願いします。



同窓会HP

3.「若楠会報」への寄稿について

若楠会報では、同窓生の方の近況やクラス会の様子をご紹介します。

また、四條暇学園は、令和8（2026）年に創立100周年を迎えます。次号は、創立100周年記念特集号を予定しています。学園で過ごした楽しい思い出等のお便りをお待ちしております。旧職員の方のお便りもお待ちしております。皆さま方のご寄稿をよろしくお願いいたします。

同窓会事務局のご案内について

事務局は四條暇学園短大清風学舎6階にあります。同窓会開催のお問い合わせや情報の提供などをお寄せください。また、機会があればお立ち寄りください。

問合 事務局長在室 月・火・木・金 9:00～16:00

☎ 072-876-1321（内線83-601）

✉ dousoukai@shijonawate-gakuen.ac.jp